

青井記念館美術館

# はぐくみ会だより

第 52 号

令和 5 年 2 月 24 日



「  
こ  
こ  
ろ  
」

中谷<sup>なか</sup>宏<sup>や</sup>運<sup>こう</sup>作<sup>うん</sup>  
(明治41年本校金工科卒)

去る5月に福島県にある白河市歴史民俗資料館から洪沢栄一所蔵作品（松平楽翁公像）について中谷宏運の作かどうか問合わせがあり、本館所蔵の他作と照合し中谷作品と確定された。氏は本校卒業後、大正2年東京美術学校彫塑科を卒、東京府立実科工業学校教諭となったが、大正12年同校を退職、同14年第4回帝展に初入選し、第5回には「影」、8回には「ほとり」、9回には「姿」、11回には「佇立」、13回には「髪」、14回には「櫛けづる」等を出品した。その他成城学園の沢柳政太郎像、杵屋勝之助像、国分勘兵衛像、楽翁公像、グラント将軍レリーフ（上野公園内）などがある。「ココロ」像は本校前庭にひっそりと佇み見るものにやすらぎを与えてくれる。

# 第29回 青井中美展

11月11日(金)  
11月27日(日)

県内40校の中学校から46点の応募があり  
257点が入選した。(内入賞は26点)  
(絵画部門229点、内129点入選、彫刻部門54  
点、内39点入選、工芸部門69点、内37点入  
選、デザイン部門94点、内52点入選)

## 各賞受賞者

|              |             |
|--------------|-------------|
| 青井大賞         | 正保 咲空(十三)   |
| 富山県知事賞       | 松長 桃子(城端)   |
| 富山教育委員会教育長賞  | 吉田 朱理(大門)   |
| 最優秀賞         | 渡邊 咲(五位)    |
| 優秀賞          | 小田原木花(高陵)   |
| 富山新聞社優秀賞     | 大西 響花(城端)   |
| チューリップテレビ優秀賞 | 藤田 有(高岡西部)  |
| 優良賞          | 舟木 瑞季(小杉)   |
| 優良賞          | 田邊 陽規(出町)   |
| 富山新聞社優良賞     | 北島 和樹(津沢)   |
| 富山新聞社優良賞     | 森山 葉月(富大附属) |
| チューリップテレビ優良賞 | 中野 伶菜(小杉)   |
| チューリップテレビ優良賞 | 魚津 芽生(高陵)   |
| 佳作           | 杉木 美羽(氷見北部) |
| 佳作           | 原井みらの(芳野)   |
| 佳作           | 坂上 悠翔(井波)   |
| 佳作           | 水上 冬弥(出町)   |
| 佳作           | 小西光都子(津沢)   |
| 佳作           | 政瀧 未怜(小杉)   |
| 佳作           | 長井 優奈(井波)   |
| 佳作           | 後田 晏滋(出町)   |
| 佳作           | 金森 理奈(出町)   |
| 佳作           | 小林 天音(中谷)   |
| 佳作           | 片山 由萌(大谷)   |
| 特賞           | 河原 愛弓(和合)   |
| 特別賞          | 齊藤ここね(出町)   |



● 富山県教育委員会教育長賞  
「小さな少女」  
射水市立大門中学校  
2年 吉田 朱理



● 富山県知事賞  
「自画像」  
南砺市立城端中学校  
3年 松長 桃子



● 青井大賞  
「おおかみ少年」  
氷見市立十三中学校  
3年 正保 咲空

## 令和4年度 課題研究作品展

2月18日(土) ~ 3月1日(水)

各学科で選ばれた作品を展示した。

| 令和4年度 課題研究表彰者一覧 | 賞           | 科                           | 課題名                     | 氏名                      |
|-----------------|-------------|-----------------------------|-------------------------|-------------------------|
|                 | 優           | 機 械                         | 3D プリンターワールドッ           | 山本 健心・松澤 春翔・大原 孝介・高木 楓太 |
| 電子 機 械          |             | レーシングカートの製作                 | 水口 真吾・佐野 颯真・芝山 昌輝・広羽 優斗 |                         |
| 電 気             |             | メダルゲームの製作                   | 稲場 大智・齊藤 寛大・高寺 優羽・橋馬 康平 |                         |
| 建 築             |             | ASSEMBEL<br>~過ごしやすい学校生活~    | 山田 頼陸・清田 美夏・柴田 遥人・中 双葉  |                         |
| 秀               | 土 木 環 境     | 黒部ダムをつくっちゃお。                | 示野 佑空・角谷 和華・川上 翔大・熊本 蒼良 |                         |
|                 | 工 芸         | 軽銀鍍金真神                      | 荒木 優芽                   |                         |
|                 | デザイン・<br>絵画 | アレルギーでも選びたい!<br>オンライン製菓店の提案 | 花村 雅                    |                         |



# 企画展

## 工芸科作品展 2022

3月12日(土)～4月17日(日)

例年、3月から4月にかけて、青井記念美術館にて、工芸科作品展を実施しております。1・2年生が実習の授業でつくった、金属工芸、木材工芸、漆工芸の作品を展示しています。生徒の頑張りが多いの方の目にとまり、より工芸に興味をもってもらえるよう、また新たに工芸に取り組みたいと思う人が増えるよう、展示しております。是非、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。



### 同窓会作品展

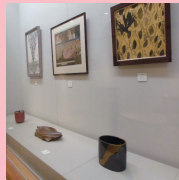
7月9日(土)～7月24日(日)

#### ◆同窓生作品展出品者

岩城 大介 太田紀久雄 奥川 克臣  
大村 雅章 河上 健三 工藤 悠市  
坂井 茂 笹波 美恵 佐藤カオル子  
炭谷 尚夫 高橋 晴美 寺 直彦  
寺腰 健一 豊本 外良 中山 裕晃  
般若 保 渡辺 敏彦 (50音順)

#### ◆教職員出品

石黒 律子 佐伯 高基  
菅原 幸 鈴木甲一郎  
柘田 篤史 森沢 美穂  
(50音順)



#### ◆同時開催

工芸生ギャラリー 高岡市展、富山県展の受賞・入選作品

## 第2回図(ふゆをかこむ)展

～サイドバイサイド～

8月9日(土)～8月27日(日)

富山大学 社合 秀一准教授

「図」は、何だろう、創作漢字だろうかと思われたかもしれません。実は、「図」を中国語の漢字で「图」と書きます。くがまえの中に冬という字の構成が、雪国富山を連想すると常々思っておりまして。そこで、この企画展を「図展(ふゆをかこむ展)」としました。なぜなら、この企画展が「図学」を中心としたものだからです。

サブタイトルのサイドバイサイドは、3D映像のデータ形式で左右の映像を横に並べる方式から取りました。高岡工芸高校において行ったワークショップでの作品も展示しました。3D映像制作は、平面、立体、時間の構成について勉強になります。

また、他に先駆け菅笠プロジェクトのピングの展示も行いました。会期中の館内で日本図学会中部支部夏季例会を開催し、展示発表も行いました。

末筆とはなりませんが、高岡工芸高等学校との御縁により青井記念館美術館で開催できましたことこの場を借りて御礼申し上げます。



## ギャラリーDに参加して

1月21日(土)～2月12日(日)

27H 西谷 駆琉

今回のギャラリーDは私達にとって2回目を迎えた為、2年生全体が1年間を通して展示を意識し、レベルの高い作品が出来たように感じます。また展示作業を自分たち生徒で行うことで、自分たちの発表の場なのだ!という自信にも繋がりと、とても良い展示になったと思います。私は習作(自主制作)として日頃から描いている石膏デッサンを展示しましたが、習作であるデッサンは課題よりも見てもらえる機会が少ない為、とても刺激を受けました。ありがとうございます。



17H 渡邊 楽

ギャラリーDでは授業の課題やデッサンに加え、自主制作も何点か展示させていただきました。普段は「制作者」として見ている自分の作品が、展示されることで「観覧者」としての見方へと変わり、私はとても新鮮な気持ちになりました。作品を考え、制作する時には様々な視点が必要だと思つたため、今回のような機会をいただいたことは大変有難いことでした。これからも物事を色々な視点で見て、表現の幅を広げていきたいと思つています。



## 同窓生ギャラリー

INDGO FURNITURE EXHIBITION

4月30日(土)～5月22日(日)

工藤 悠希(H7 工芸科卒)

第143回 この度は高校時代の恩師からお誘いを頂き、去年に引き続き個展を開催できたことを本当に嬉しく思っています。

父も祖父も家具職人ということもあって必然的にこの道に進みましたが、20歳代は家具製作の面白さなど全く分からず仕事に追われていた日々でした。意識が変わってきたのは30歳代になった頃、無垢材での家具製作が増えてきたことからです。「木」という素材と向き合い、素材を知り、今までは使わなかった節や割れを木の個性ととらえ、あえて家具に使うというスタイルが自分の中でとてもしっくりきたのを覚えています。



個展では実際に作品に座ったり触れたりしていただいて、作品を通して皆様に私の木に対する思いを感じ取って頂けたのではないかと思っています。

今回の個展を終えて、色々な感想を頂戴し改めて自分の目指すモノ造りの方向性は間違っていないというのを改めて感じることができ、大きな喜びと自信になりました。これからも自分の感性を信じ、使う人の暮らしがほんの少しでも豊かになるような家具を造っていきたいと思います。

## 第144回

寺 直彦木創展／富山木象嵌作品展

4月30日(土)～5月22日(日)

寺 直彦(S61 工芸科卒)

この度三回目の個展を開催させていただきました。今回はとやま木象嵌工芸会会員の皆様にご協力を頂き、木象嵌の作品を展

示し開催することができました。これは家内が、富山県の令和3年度伝統工芸一匠の技術継承支援事業により、とやま木象嵌工芸会会長であり、現代の名工でもある朴木立堂氏に一年間師事できたご縁からです。朴木氏は富山県功労者表彰(平成7年)、黄綬褒章(平成19年)等数々の表彰を受けた富山木象嵌の第一人者です。気さくな人柄で惜しみなく木象嵌の技術指導をして下さいました。本当によい機会に恵まれたと思います。素人に近い家内が作品を制作できるまでになり感謝しております。

木象嵌とは糸鋸を使い天然木に天然木をはめ込み木画を作る技術のことです。糸鋸で天然木を切り抜き、隙間なくはめ込んだ作品は、富山木象嵌は、初代富山木象嵌士の中島李堂が、近代木象嵌のバイオニアである箱根町の白川洗石に弟子入りし、富山県で広め確立しました。あまり知られていませんが、木象嵌は富山県指定の伝統工芸です。

さて、私が家具製作の傍、取り組んでいる工芸作品は、大自然の息吹や素材の表情を活かし、木と語りながら創作しているところです。そして、見る方の感性に響く、美しいフォルムを探し出し創作しています。実用性と美しさを兼ね備え、使い続けて頂ける作品制作に今後も挑戦して参ります。

とやま木象嵌工芸会と合同開催の運びとなり、たくさんの方々にご協力を頂き、大変嬉しく感じております。ご覧下さいました皆様、ご協力・ご支援を頂いた方々に心より感謝申し上げます。



奥川克臣作陶展

## 奥川克臣作陶展

6月4日(土)～6月22日(日)

(S39年 窯業科卒)

第145回 奥川克臣さんは卒業後、武蔵野美術大学で洋画を学ばれたのち愛知県常滑で陶芸修行をされた。

その後小矢部市に戻られ、現在の安養寺で夜夫奈美窯(やぶなみ)を開いておられる。用いる黒土は工房近くのものでそれをベースにして造形・加飾のあと薄く白土をかぶせ焼成する。釉薬は主に長石釉を用い、作品は、身近ですぐに使え、「うつわもの」が多い。白色の中に地の色で文様がやわらかく見え隠れする上品で優しい感じがする。また一方で陶石を用い、高温で焼成する磁器に近いかつちりした作品も氏の制作範疇に含まれる。



## 加納 萌子個展 Portrait

7月9日(土)～7月24日(日)

加納 萌子(H26年デザイン絵画科卒)

第146回 この度、二度目の個展を開催させていただきました。ただしました。F001550号までの油

彩画を15点展示しました。コロナ禍に加え夏の暑い日が続く中、多くの方々が会場に足を運んでくださり、とても嬉しく思いました。普段一人で制作をしているため、たくさんの方に作品をご覧いただき、さまざまなお感想をいただけて刺激を受けましたし、大変勉強になりました。

今回少女の姿をモチーフとした作品を中心に展示しましたが、来場された方々がそれぞれの子が好き、あの女の子が好き、といったように好きな少女を教えてください、自分の絵を新鮮な目で見る事ができました。

貴重な機会をいただきありがとうございます。今回の展覧会を礎に、これから良い絵を描けるよう日々精進いたします。





### 第9回工芸建築科同窓会・作品展

9月4日(土)～9月24日(土)

建築科同窓会会長

大野博和 (S47建築科卒)

今回、同時開催として、平成の大修理が行われた伏木「勝興寺」の棟梁を務めた田中健太郎氏の大工道具を展示、また特別出展として上原雄史富山大学芸術文化学部教授の作品が展示された。来年は、作品展10周年そして建築科同窓会設立50周年を迎えます。節目の年であり出来る限り盛大に開催したいと考えております。



14H 西出 悠馬

私は、工芸建築科同窓会作品展を見させて頂き富山県防災危機管理センターがとても印象に残りました。72時間以上のライフラインの自立機能や耐震、耐水性能の確保など非常時の対応への設備はもちろん、保育施設の設置や会議室の設置といった通常時の用途も充実していてどんな状況にも対応できるところが特に印象に残っています。また、センサーによる照明や効率的な空調の設備といった環境に配慮された設備が設置されていることから自然の力が無駄なく使われているところもこの施設の魅力の一つだと感じました。

今回の工芸建築科同窓会作品展を観て、非常時の対応が主な役割の施設でも、使い方を少し工夫すればどんな用途にでも変わり、様々な場面で利用できるのだと学びました。しかし、資料の中に「中間免震構造」やガラスの種類などいくつか分からない用語が出てきたので、それは自分で調べたり、これからの授業や実習等で学んでいきたいです。

### こどもが描く楽しい世界

大谷美術学園生徒作品展

12月10日(土)～1月9日(月)

大谷弓子 (S53デザイン科卒)

この度、青井記念館美術館・同窓生ギャラリーでの作品展示に御声がけいただき、ありがとうございます。美術館にも同窓会にもご無沙汰しておりましたのに、

機会をいただき、この大きな空間にどんな展示をしようか、どうしたら「こどもの絵」の魅力を伝えることができるのだろうか・・・と悩みながら、今回はこれまで発表してきた作品を並べることとしました。大きく分けると、個人作品と共同制作の作品ですが、いずれも、こども時代にしか描けない、楽しい表現にあふれています。

入口正面には、高岡教室の3歳から14歳の生徒が共同制作した「高岡大仏」を展示。こども達が大好きな大仏さまを大きな紙の上に乗って、みんな協力しながら描いたものです。

会場奥には富山教室の生徒による共同制作「狩野探幽作・竹虎図襖」を屏風仕立てにした模写(こどもなりの解釈)と感じました。描いた作品を配置。その前面パネルには、大谷美術学園の生徒が毎年全員で取り組んでいる世界や日本の古典の名画の模写から、令和4年の干支にちなみ「虎」をテーマにした、尾形光琳、円山応挙、伊藤若冲、長谷川等伯、岸駒、葛飾北斎などの虎図の中から好きな作品を選び、毛筆を使って模写した作品128点を、掛け軸風に展示しました。また、令和3年の干支にちなみ「牛」の作品では、ポツアートの代表的な作家、アンディー・ウォールが牛を表現した作品を見て、自由な色彩とそれぞれの年齢らしい表現で描いた作品208点を壁一面に展示。カラフルな牛が大集合しました。

この他にも、美の祭典・越中アートフェスタの交流事業「こどもが描く共同制作壁画」に参加した作品「2021年SDG's世界中みんな仲良し!世界の民族衣装」、「2022年大切にしよう!自然・生き物」を集めて展示。一人一人の個性が光る作品となりました。それぞれ年齢の、その時々にし描けない、こども時代の記録であり、心の表現でもありま

す。こどもはみんな描いたり造ったりすることが大好きです。より良い環境や共感してくれる大人(親や教師)があることで、



ますます伸びてゆくと思います。今回このような展示の機会をいただき、こども達も私達もこれからの大きな励みとなります。心より感謝申し上げます。末筆ながら、小さい時、美術学園に通ってくれたお子さんの中から、工芸高校の生徒になり、ものづくりや絵画、工芸、デザイン等を学んで、同窓生となっていることをとても嬉しく思います。尚美の伝統が永く続くことを願っております。

### 皿展 よんてん

12月10日(土)～1月9日(月)

安達陽子 (H3工芸科卒)

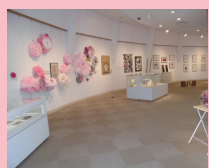
この度は、皿展よんてんを母校である青井記念館美術館で開催させていただきました。有難うございました。母と娘たち、そして姉妹による4人の初めての作品展となりました。木彫・イラスト・ペーパーフラワー・切り絵など計57点を展示しました。

柴田恵 (H2デザイン科卒) は、ピンクの薄葉紙を幾枚も重ね、直径50～100cmの大輪の花々を制作。春が訪れたようなパツと華やかな映えスポットとなり家族連れに人気でした。

柴田和希 (H24デザイン絵画科卒) は、白と黒を中心にアンニュイさが感じられるイラスト・デザイン34点を展示。「独特な世界観だね。」とお声がけいただきました。

柴田実和は、立体切り絵を展示。小さくて繊細な2点ですが、切り絵を立体的に表現出来ることを観ていただけました。

そして私は、子どもをモチーフにした木彫を中心に18点を展示。工芸科を卒業後、井波彫刻での修行を経て、現在木彫32年目です。多くの方々にご高覧いただき、温かいお言葉をかけていただいて、良い経験となりました。これからも日々の生活の中で、それぞれのペースで絵を描いたり、ものづくりを続けていきたい幸せです。



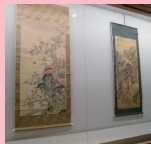
特別企画展

本館活動の大きな柱の1つとして地域貢献(収蔵品公開、地域作家招待など)・現役生支援事業が設置されており、今年度は以下の展示が行われた。

収蔵作品展Ⅰ期(日本画・掛軸)

6月4日(土)～6月26日(日)

|        |        |
|--------|--------|
| 五ヶ山風景  | 小坂 勝人  |
| 菖蒲     | 長沢 菊地  |
| 瓢箪棚図   | 塩崎 一郎  |
| からす瓜図  | 塩崎 逸陵  |
| 猫の望む   | 寺田 元吉  |
| 二上山を望む | 村 金平   |
| 極楽坂雪景  | 村 金平   |
| 青緑山水図  | 与謝 蕪村  |
| 蓮花鸞図   | (伝) 呂紀 |
| 蓮花水鳥図  | (伝) 呂紀 |
| 富貴花鳥図  | 佐藤 勝山  |

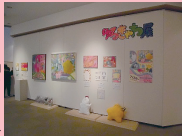


工芸生ギャラリー

(現役生徒のためのコーナー)  
ゆるぎやわ展を終えて

私は今回友人1人とグループ展を開きました。初めての展示であり、自分にとって良い経験にすることができました。反省や課題が多く残る展示となりましたが、私の高校生活の中で創ってきた作品を、友人とともにこの世に発表できたことがとても嬉しいです。今回自分の作品たちを「飾る」ことは、作品を「作る」と同等に大切だと理解しました。

工芸生ギャラリーにて、この様な機会をくださり、ありがとうございました。



36H 五社 光希

Dream Collection 2022

3月12日(土)～4月17日(日)

私は、「ドリームコレクション2」において、主に映像制作側として携わりました。主に制作風景やファッションショーの動画撮影、編集等の作業を行い、完成品を青井記念館美術館で展示しました。今回の企画は私達を中心としたこともあり、作品制作を行うメンバーと計画を話し合ったりよく確認し合ったりしながら進めていきました。映像を制作するのは初めてだったので作業が思うようにいかず、苦戦もしましたがプロジェクトのメンバーが励ましてくれたり、先生が親身になって教えてくださったりして二つの作品を作りあげることができました。

今回の企画で、様々な方に協力していただきプロジェクトを成功させることができました。私自身も映像制作をより深く知り成長できました。今回の経験を生かし、今後の企画にも生かしたいと思います。



今回の「ドリームコレクション2」の活動を通し、私はとても感動しました。

昨年は三年生の先輩のもと活動していましたが、今年には私たち二年生が主体となって企画を動かしました。同じ部活の仲間でも初めてのことで、「自分がしっかり頑張らなくては」という責任感とプレッシャーが、時間が経過する度にのしかかってきました。

試作品作りから始まったこの企画。初めころは誰もが何をすればいいのか分からず右往左往していました。しかし、徐々に自主的に作品制作をすすめるメンバーたちの姿に感心しました。

大変なことや難しいこともありましたが、今こうやって展示という形に仕上げることができたのは、協力してくれた部員や先生方のおかげだと思います。協力することの大切さを知れた1年でした。

37H 清原 愛優

尚美展企画展

文化庁作品展

昨年に引き続き尚美展の前から開催。各文化庁の日頃の成果を所狭しと展示頂いた。特に今回は電気工部が昨年のミラコンでみごとに最優秀賞を獲得されたのでご紹介させていただきます。

「尚美展企画展」文化庁作品展に出品して

10月1日(土)～10月23日(日)

私たち電気工学部は、モノづくりコンテストやITフェスタなど各種競技大会やイベントに向け、日ごろから練習や製作活動に取り組んでいます。そのなかでも今回展示したEVは二年前に製作し、ミラコン2021で発表したものです。このEVは全長2.9m、幅0.6m、高さ0.55mの一人乗りで、最高速度40km/h、単三型電池40本で約20kmを走行できるように設計しました。実際に人が乗れてこれだけ大きいものを作るのは初めてで、手探りの状態で製作を開始しました。コロナ禍での制約もあり活動時間が十分に取れないものなかつたなか、少しずつ木材や金属、樹脂の加工を進め、時には作業に必要な道具も手作りしました。途中いくつもの問題点がありましたが、試行錯誤を重ね一つひとつ解決して完成させました。特に印象に残っているのは車体外装材の熱成型で、樹脂とこれを熱する方法や道具の選択など、納得いくものができず何度かやり直しました。一番手間と時間がかかった作業ですが、みんな協力して良いものができたときの達成感は格別でした。こうした多くの頑張りに、ミラコン最優秀賞という高い評価をいただいたのだと思います。



EVの製作を通して、モノづくりに必要な知識や技能ばかりでなく、環境問題への解決策など多くのことを学ぶことができました。これからもこうした活動にも取り組んでいきたいと思っています。

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校  
青井記念館美術館はぐくみ会  
住所 933-8518 高岡市巾川一丁目二〇  
TEL 〇七六六二二一六三〇  
FAX 〇七六六二二一六三一